

○ 「生涯学習の視点に立った社会教育の在り方」について

	<p>【前回からの修正内容について】</p>
委員	<p>《提言の骨子について》</p> <p>6ページに「人々が一生涯を見据えて様々な場や機会で自発的に行う学習」と記載してあるが、趣味とか読書といった生涯学習は場や機会がなくてもできることを踏まえると、「様々な場や機会」という文言を削除しても、伝わるのではないか。</p>
事務局	<p>「生涯学習」の場合には、趣味等を意図しなくても、場や機会がなくてもできるという捉え方があると思うが、「社会教育」となると、学校教育と同じように意図的な活動が出てくる。そのため、場や機会という文言が必要になる。</p> <p>「個々の要望からの学び」や「社会の要請から必要に迫られた学び」等、社会教育の動向の中で必要に迫られている学びがあり、生涯学習の視点に立ち、社会教育として進めていくって意味合いで書いてある。</p>
委員	<p>《地域学校協働活動について》</p> <p>6ページの提言1で学びの受け皿となるのが「地域学校協働活動」であり、そのために地域学校協働本部とコミュニティ・スクールの一体的推進が重要であるという解釈で良いか。注釈を読んでも不明瞭な気がする。</p>
委員	<p>県の方針で、地域学校協働活動とコミュニティ・スクールの一体的推進を打ち出している。学校運営協議会で方針を話し合い、実際に実践するのが地域学校協働活動、それで一体的推進という捉えで良いか。</p>
事務局	<p>ここで伝えたいのは、地域住民の学びを保障することも必要な部分であるので、そのためには、子どものため、地域のための学びの受け皿として、一体的推進が必要ではないかという捉え方である。</p>
委員	<p>《社会教育関係団体について》</p> <p>社会教育関係団体については、注釈のとおり、広く捉えるということで良い。</p>
事務局	<p>社会教育関係団体の活性化については、地域学校協働活動の中で、地域の一員としてその団体の方々が取り組んでいくということが、将来的な社会教育関係団体の活性化につながるのではないかと、提言1地域学校協働活動の中に盛り込んでいる。</p>
委員	<p>《社会教育施設について》</p> <p>11ページの方策として、「スタンプラリーやビブリオバトル」等のイベントが県民のニーズなのかという疑問をもった。</p>
委員	<p>参加したくなるような事業やイベントのさらなる充実が、県民のニーズであると捉えて良いのか。</p>

事務局	第2回で出たご意見をもとに、親しみやすさにつなげる部分でスタンプラリー等を記載した方が良く考えた。
委員	敷居の高さからなかなか利用しづらいというのは、こういった施設の状況を捉えて表現したものか。
事務局	前回、図書館と美術館について、そのようなご意見が多く出ていたことによる。
事務局	《読書県づくりについて》 読書県づくりについては、前回、県立図書館の活用と読書県づくりについて出されたご意見の重複している部分を一つにまとめ、かつ、今回、社会教育施設に盛り込んだため、読書に関しての色合いが薄まってしまった感がある。 社会教育施設については、大分広範囲のことをまとめたため、例えば、読書県づくりについては、前回のように、生涯学習の視点に立った読書県づくりについて、提言に位置付けた方がよいと考える。
事務局	生涯にわたった読書活動の計画がある県は全国にもあまりない。宮崎県は10年間、令和9年度までの生涯読書推進計画がある。 現在中間地点で、今回改訂作業を進めているところであり、学びを広げ、生涯にわたって読書に親しむ点からも、提言2に盛り込むのが良いと考える。
委員	【提言全体を通して】 《社会的背景について》 話し合いをした時期がコロナのピークの時期だった。今はウィズコロナの概念になってきており、その認識で見ると若干ずれている。今は「在宅テレワーク」ではなく、「リモートワーク」といった呼び方をする。また、集うことが難しいわけでもないのに、文言の見直しが必要ではないか。
委員	《これまでの提言の位置付けについて》 これまで協議の中で重要なキーワードとなっていたのが、子どもから大人までの「縦のライン」と、地域ぐるみの「横のライン」の2つの切り口から考えることだったので、そうした文言を加えてもよいのではないか。
委員	めざす姿の中に、国も進めている「デジタル化」に係る文言も加えた方が良い。
委員	《地域学校協働活動について》 「地域学校協働活動」と組織の要となる地域学校協働本部の位置付けが難しい。本部というのはどのような団体のなのか。
事務局	文部科学省は地域学校協働活動（本部）と記載している。地域学校協働活動を中心に、地域側で推進していく際の体制が、地域学校協働本部と捉えている。

事務局	<p>地域学校協働本部の捉え方は、宮崎県には「こっただけ」が合言葉になっており、「コーディネート能力」「多様な活動」「継続的な活動」の3要素があれば本部として捉えるようにしている。</p>
委員	<p>地域学校協働活動は、地域と学校が連携していく活動で、学校が地域と連携するような協議会をもっているのが「コミュニティ・スクール」で、地域の側で学校と連携しようとしているのが「地域学校協働本部」というイメージがある。</p>
事務局	<p>学校運営協議会と地域学校協働本部がどのような子ども達を育てたいのかという目的・目標が共有されることが一番大事であり、その上で地域と学校が協働して、活動を計画していくことが大きなねらいである。</p>
事務局	<p>私たちはこれまで社会教育という立場で議論を重ねてきた。</p> <p>社会教育というのは、学校教育以外の教育的なことがすべて含まれており、非常に幅広い。しかし、ここでいう地域学校協働活動というのは、コミュニティ・スクールで学校長が「こんな子どもを育てたい」という経営方針を出し、それを受けて、地域が連携してやりましょうということで、今までの社会教育と比べ狭くなってしまった。</p> <p>そこで、「生涯学習の視点に立った社会教育の在り方」で、学校教育と社会教育を結び、いつでもどこでも誰でも生まれてから、100年時代の中でどう学びを提供するかという、非常に時代に即した提言が今回なされている。</p>

※ 主なご意見を集約したもの